

外国人女性の子育て実態調査 報告書

2014年3月

多文化クラブとまと

川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）

目次

I 調査概要	3
1. 調査目的	3
2. 本調査における「外国人」の定義と調査対象	3
3. 調査期間	4
4. 調査手法	4
5. まとめ及び提言	7
II. 調査結果	1 2
1. 言語障壁による狭い行動範囲	1 2
2. 密室育児	1 3
3. 情報過疎	1 6
4. 外国人女性の子育て支援センター等利用状況	1 9
5. 家族の手助け	2 2
6. 子どもの母国語・母国文化保全と学習言語	2 3
III. 資料	2 7

I 調査概要

1 調査目的

社会参画が思うようにできない社会構成員として女性を取り上げられて久しいが、その中でも外国で生まれ育ち、配偶者の仕事や国際結婚等で来日した外国人女性達の日本社会への社会参画には、言語の壁に加えて、様々なハードルがあると想像される。そのような状況下で、子どもを持つ者は好むと好まざるとに関わらず、子どもを通して日本社会との接点生まれる。彼女たちは、日本人女性と共通の子育ての悩みに加えて、外国人女性特有で多様な困難を抱えていることと推察される。本調査研究では、外国人女性の子育ての実態を明らかにすることを目的とする。加えて、川崎の男女共同参画社会のよりよい未来の構築のために、子育て期の外国人女性の困難を助け、子ども達のよりよい育ちの場づくりを考える。

2 本調査における「外国人」の定義と調査対象

法律によると、「外国人」とは「日本の国籍を有しない者」（『出入国管理及び難民認定法（入管法）』第2条）と規定されている。

しかし、日本人の日常生活における「外国人」認知の基準は、容姿や生活スタイル、日本語の流暢さ等であると考えられる。テレビのバラエティー番組では、両親どちらかが外国人で容姿が日本人離れしている外国人タレントが活躍している。しかし、彼らの多くは二重国籍もしくは日本国籍の人たちであり、法律の定義からいうと外国人ではなく日本人である。

このように、日本社会では取り上げられる場面によって「外国人」の定義に揺らぎがある。

そこで、本調査では、日本社会における生活者の視点から、外国で生まれ育った後、来日、日本語が母語ではない外国籍もしくは帰化した女性を「外国人女性」と呼ぶことにする。そして、その中でも子育て中の外国人女性を調査の対象とする。従って、日本で生まれ育った

外国籍の女性は、今回の調査の対象としない。

また、川崎市の外国人市民を語る場合、多数が集住している川崎区が対象になることが多く、外国人コミュニティもあり、民間の支援団体も存在する。それに比べて、中部（中原区・高津区・宮前区）が語られることは少ないが、3区の人口を合わせると9,896人であり、10,859人の川崎区に迫るものがある。この1万人弱の人々が散住（コミュニティを形成せず点在して居住していることを散住という。）、社会参画が比較的成されていない川崎市中部（中原区・高津区・宮前区）を調査対象地域とする。（Ⅲ．資料1参照）

3 調査期間

2013年6月28日～2014年2月28日

4 調査手法

次の3つの方法で了解を得て聞き取り調査を行った。

- (1) 子育て支援イベントを行い参加者から聞き取り調査をする。
- (2) 子育て支援・日本語学級等の参加者に聞き取り調査をする。
- (3) 支援者に聞き取り調査をする。



「外国人保護者のための日本の幼稚園を知る会」の様子

イベント概要

① 「外国人保護者のための日本の幼稚園を知る会 ～ようちえんってなに？ どうすれば はいれるの？」

開催日時：2013年6月28日(金曜日)10:00～11:30

会場：福祉パル高津 研修室 B

対象：0～4歳の子どもを持つ親

定員：10名

参加者

	出身国	居住区	子の年齢
1	中国(上海)	中原区	3歳
2	中国(香港)	中原区	2歳08ヶ月
3	台湾	中原区	2歳11ヶ月
4	台湾	高津区	2歳09ヶ月
5	韓国	高津区	3歳
6	韓国	高津区	1歳09ヶ月
7	シンガポール	高津区	3歳01ヶ月
8	フィリピン	高津区	3歳06ヶ月
9	マレーシア	宮前区	2歳04ヶ月
10	ウズベキスタン	宮前区	2歳08ヶ月

(Ⅲ 資料2参照)

② 「外国人ママとパパのための子育てサロン」

開催日時：2013年 7月11日(木曜日) 10:00～11:30

8月 8日(木曜日) 10:00～11:30

9月12日(木曜日) 10:00～11:30

10月10日(木曜日) 10:00～11:30

11月14日(木曜日) 10:00～11:30

12月12日(木曜日) 10:00～11:30

会場：川崎市男女共同参画センター 3階 会議室

対象：外国人親子

定員：特に定めない

申し込み：不要

参加者

	参加者数	保護者出身国	子どもの年齢と人数	見学者等
7月	4組 7名	中国、台湾、フィリピン	3歳：2名 2歳：1名	3名
8月	1組 2名	エチオピア	3歳：1名	1名
9月	6組 15名	中国、フィリピン、日本(配偶者が外国人)	5ヶ月：1名 1歳：5名 3歳：3名	3名
10月	0組 0名			
11月	2組 5名	エチオピア、日本(配偶者が外国人)	1歳：1名 3歳：1名 4歳：1名	2名
12月	1組 2名	エチオピア	3歳：1名	3名
延べ参加者数：14組 31名／延べ見学者等：12名				

(Ⅲ. 資料3参照)

③ 「(小学校入学準備) せつめいかい」 (Ⅲ. 資料6参照)

開催日時： 2013年10月18日(金) 11:30~12:00
 会場： 宮前市民館 第4会議室
 対象： 2014年4月に小学校へ入学する子どもの親
 定員： 特に定めない
 申し込み： 不要

参加者：1名 (ペルー)

調査協力支援者グループ

- ・ 中原区・高津区を活動エリアとする子育て支援グループ 1
- ・ 宮前区を活動エリアとする子育て支援グループ 1
- ・ 宮前区を活動エリアとする日本語識字支援グループ 1

5 まとめ及び提言

(1) 言語障壁・情報過疎・密室保育のループ

知っている日本語は「こんにちは」「ありがとう」だけの人から日本語能力試験 N1(国際交流基金と財団法人日本国際教育支援協会が運営し、国内外で日本語を母語としない人を対象として日本語の能力を測定し、N5～N1に認定するテスト。日本語母語話者にとっての英検1級に相当する。)取得者まで、多岐に渡る日本語能力の外国人女性から聞き取り調査を行ったが、日本語が不自由な人ほど、乗り物を使わず、徒歩圏で生活の全てをまかなう傾向がみられた。自分ひとりであれば何とかできると行動できることも、子連れの移動は慎重になる。日本語が不自由で、同国人コミュニティがない地区に住み、行動範囲が狭いということは、人とのコミュニケーションのチャンスが少ないことを意味する。日本語が分からない外国人にとってロコミは命綱であり、同国人の友人が近所にいないということは、必要な支援の情報が入ってこない「情報過疎」の状態に陥りやすいことを示唆する。川崎市中部には、限られた行動範囲で過ごす中で人とのつながりが薄く、情報も届かず、育児の不安、日本での生活への適応のストレスなどが積み重なり「密室育児」の淵で踏ん張っている外国人女性が多いことがうかがえる。(Ⅱ. 調査結果 1. 言語障壁による狭い行動範囲 p.12~13、2. 密室育児 p.14~16、3. 情報過疎 p.17~18 参照)

一方、当調査への取材や見学依頼から、外国人女性への子育て支援の重要さに気づき、なんとかしたいと思っているもののアクセスの手立てを掴みかねている支援者がいることも分かった。(Ⅱ. 情報過疎<日本社会からサロンへの働きかけ> p.19 参照)

川崎市のホームページでは「川崎市の多言語広報資料一覧」がダウンロードできるようになっており、子育て支援も含めた多くの公的手続きや支援の情報が掲載されている。

<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000046133.html>

しかし、残念なことにこの一覧表に掲載されている多言語情報113件の内、関係部署のホームページで閲覧可能なものは41件にと

どまる。殆どの資料は紙媒体で、区役所や図書館、市民館に設置されている「外国人市民情報コーナー」に出向くか資料発行部署に問い合わせなければ手に入らない。行動範囲が狭い子育て期の外国人にとって紙媒体の情報へのアクセスは難しい。個々の多言語広報資料の速やかなホームページへの掲載と「川崎市の多言語広報一覧表」へのリンクが望まれる。

また、外国人女性の殆どが緊急時、日本語がわかる家族と連絡を取るためにスマートフォンを持っており、ホームシックを紛らわすために Line や Skype といったアプリで故郷の家族と頻りに会話を交わしている様子を調査中に度々目撃した。こうしたスマートフォン普及の中、著作権等の枠を外し二次利用可能なデータを公開する「オープンデータ」が世界的な注目が集めている。2009年のアメリカ政府を皮切りに、日本政府も2012年に「電子行政オープンデータ戦略」を打ち出し、「行政の透明性・信頼性の向上」、「国民参加・官民協働の推進」、「経済の活性化・行政の効率化取り組み」を目指し取り組みを始めた。2014年2月東京大学メディアセンターで開かれたオープンデータを使って限られた時間でアプリを開発する大会（ハッカソン）では、自分の母子手帳のデータを世界のどこに居ても閲覧できるアプリや災害時日本に住む外国人向けに地図上に多言語訳の危険情報や避難情報、近くにいる同国人を表示するアプリの試作が創られていた。もしも前述の「川崎市の多言語広報資料一覧」に記載されている多言語資料が二次利用を前提にオープンデータ化されれば、川崎市の外国人市民のニーズに合ったアプリの開発が可能になり、外国人がスマートフォンで手軽に情報検索ができようになるであろう。

総務省ホームページ「オープンデータ戦略の推進」

[http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictriyou/opendata/index.html?utm_source=feedburner&utm_medium=feed&utm_campaign=Feed:+netnavi/economics+\(%E3%81%AD%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%81%B3+-%E6%94%BF%E6%B2%BB%E7%B5%8C%E6%B8%88\)](http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictriyou/opendata/index.html?utm_source=feedburner&utm_medium=feed&utm_campaign=Feed:+netnavi/economics+(%E3%81%AD%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%81%B3+-%E6%94%BF%E6%B2%BB%E7%B5%8C%E6%B8%88))

(2) ファーストステップでの情報提供

川崎市外国人市民代表者会議は、そのニューズレターNo.48(2013年9月1日発行)で『情報伝達』という大おきな問題にとり組みましたが、難問題であることが確認できた。情報を積極的に探す外国人市民に対しては、川崎市の制度は比較的整っているようですが、積極的に探しているわけではない人に情報伝える方法についてはまだ課題が残っています。」と指摘している。(Ⅱ. 調査結果 3. 情報過疎 p.17~18 参照)

2012年7月から新しい在留管理制度が導入され、外国人登録制度が廃止され、外国人も日本人同様、住民基本台帳に記載されることになった。転入届を出すという川崎市民としてのファーストステップを踏み出す時点での情報提供は、「積極的ではない人」に有効ではないだろうか。子どもの有無もわかるので、子どもがいる家族に現在渡されている外国人市民への多言語情報に加えて、子育て支援の情報を配布することは、情報過疎解決の1つの方法であると思われる。

同様にファーストステップを捕まえる方法として、母子手帳発行時の多言語子育て支援情報提供も有効と思われる。

(3) ニーズにあった支援とスキル

A. 子育て支援センター等地域の子育て支援

各区内に数箇所設けられ、徒歩や自転車で通うのに適しているため、日本語がある程度できる外国人ママが利用しているケースが見受けられる。日本語での情報収集ができない外国人ママは、口コミでその存在を知っている場合もあるが、殆どは子育て支援センター等の存在を知らない。このような施設は、保健師の巡回があり、スタッフによる情報提供・相談が可能である上に、多数の母親とも知り合いになれば、乳幼児を持つ父母にとって有益な場所である。このような場所の情報が伝われば、外国人女性にとっても子育ての強い見方となると推測される。

ただ現況では、スタッフによって外国人保護者とのコミュニケーション力にばらつきがある。留学や職場に外国人がいたという経験をしているスタッフは、物怖じせず話しかけ積極的に支援ができるが、外国人と接した経験が少ないスタッフは「とりあえず、にこにこしてみるものの内心どう接したらいいか分からない。登録用紙記入はいつも英語ができるスタッフに代わってもらっています。」（高津区内子育て支援施設スタッフから聞き取り）と外国人とコミュニケーションをとることに自信がない。こうした自信のないスタッフには、異なった文化的背景を持つ者どうしのコミュニケーションを学ぶ「異文化コミュニケーション・トレーニング」や阪神・淡路大震災を期に生まれた非母語話者にその人が分かる範囲の日本語を使って情報を伝える「やさしい日本語」などの研修を受けてもらうのが有効だと思われる。また、このような研修を行うことで、子育て支援の現場に外国人への対応の必要性を認識されれば、受け入れがスムーズにいき、密室保育の淵で踏ん張っている外国人女性の居場所ができると予測される。（Ⅱ 調査結果 4. 外国人女性の子育て支援センター等利用状況 p.20~21 参照）

B.親子日本語学級

7 区に 1 つずつある市民館の識字日本語学級や中原区にある川崎市国際交流センターの日本語講座は保育付で、来日間もない日本語での日常生活がままならない外国人の日本語学習に適している。また、日本語は話せても読み書きがままならならず、保育園や幼稚園、学校との連絡に不自由を感じる外国人も子どもが通園・通学の間日本語を学ぶことができ便利である。加えて、学校のお知らせなどを持参すれば、日本人ボランティアや外国人相談員（川崎市国際交流センターにのみ駐在）と一緒に読んでくれる。但し、グループでの日本語学習が基本なので、個人的な願いは学習時間外になる。ただ、ボランティアはリタイア世代が多く、現役子育て世代はごく稀にしかいないので、子育て支援情報を入手する場としては適していない。（Ⅱ. 調査結果 4. 外国人女性の子育て支援センター等利用状況 p.21~22 参照）

しかし、ボランティアグループ「親子で学ぶ日本語サロン」は、春と秋に 0～2 才の子どもを持つ外国人に特化したサロンを川崎市国際交流センターで開催している。ここでは、「オムツは燃えるご

み?燃えないごみ?」など、子育て生活に密着した話題が取り上げられている。0才児の保育を行っていない同センターの日本語講座と補完関係にあり、子どもができて日本語の学びを継続できるようになっており、ファーストステップで子育て支援との接点を持つ、密室育児回避にもなっている。実際、このサロンから本調査の「外国人保護者のための日本の幼稚園を知る会」に参加した人が確認できた。今後、他の地域にもこのような子育てに特化した日本語学習支援が望まれる。(Ⅱ. 調査結果 3. 情報過疎 p.18 参照)

C.外国人に特化したサロン

外国人に特化した子育てサロンは、3つの意味で外国人の母親を支える存在である。1つは同国人とのネットワークを広げるミーティング・ポイントであり、もう一つは当事者同士が語り合うピア・サロン本来の語りと支え合い、そして最後の1つは支援者からの子育て情報提供の場である。

本調査で行った「外国人ママとパパのための子育てサロン」も例外ではない。7月は、6月に行った「外国人保護者のための日本の幼稚園を知る会」の流れで、より詳細な幼稚園情報を求めて参加者が集まり、幼稚園見学会が始まる9月には姿が見えなくなった。代わりに、同国人と知り合う目的で中国人ママが多数やってきて、友達を作り、翌月には来なくなった。10月は参加者がゼロになったかと思うと、11月には保健師さんの健康指導に合わせて、相談事のあるママがやってきた。(Ⅰ. 調査概要 4.調査手法: イベント概要②「外国人ママとパパの子育てサロン 参加者 p.6 参照」

サロンの役割は、参加人数の多少に関わらず、いつもそこにあるということだ。参加者が来たい時に気軽に来られるから参加者は心を開き、周りとの絆を構築する。かつてあった「ベルファム」や「レインボークラブ」の常設復活や、新しくこの種のサロンが立ち上げられることが望まれる。(Ⅰ. 調査概要 (4)調査手法②「外国人ママとパパのための子育てサロン」参加者 Ⅱ. 調査結果 2. 密室育児、4. 外国人女性の子育て支援センター等利用状況 参照)

II 調査結果

*調査結果の文末に括弧書きで調査方法と出身国を記す。

<調査方法の記号>

- 1－①：イベント①「外国人保護者のための日本の幼稚園を知る会」
- 1－②：イベント②「外国人ママとパパのための子育てサロン」
- 1－③：イベント③「(小学校入学準備) せつめいかい」
- 2：子育て支援・日本語識字学級等の参加者への聞き取り
- 3：子育て支援者への聞き取り

1 言語障壁による狭い行動範囲

日本語は、母語人口でいうと世界第9位（約1億2千万人）であるが、第二外国語として学習する人口は約398万人（国際交流基金2012年度調査）と急に数が減る。日本に住む前に日本語を習得していた人はさほど多くないのが現状である。外国人女性の多くが日本語を片言で聞いたり話したりできるようになっても苦戦するのが表記である。ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字と4種類の文字が入り混じって表記されている標識や看板に歯が立たない人は多い。自分ひとりであれば何とかできることも、子どもを抱えていると慎重になる。子育て期の外国人女性の行動範囲は日本人に比べてかなり限定されており、普段の交通手段として言葉がわからなくても自分で何とかできる徒歩や自転車を主に利用する人が多い。

- 結局、家の近所の幼稚園にしました。保護者会や体調が悪いときのお迎えなど、都内に勤めている夫を呼ばなくても、私がひとりで幼稚園にいけるからです。普段から移動は自転車です。電車やバスは夫と一緒にないと乗りません。特にバスは、どこで降りたらいいかわからないし、間違っただけで降りたら、そこからどうやって戻ったらいいかもわかりませんし、日本語があまりできないから道を聞いてもさっぱりわかりません。(1－① 中国)

質問「子どもを連れてどんなところに出かけますか？交通手段は？」

- 息子（両親とも中国人）は、一人でどこへでも行ってしまうから心配です。日本語は殆どわかりませんし、迷子になったらと本当に心配です。目がはなせないなので、気が休まりません。（2／中国）
- 外出は、自転車です。バスは、乗りません。降りるところを間違えたら、自分がどこにいるのかわかりませんから。子どもを連れていくと、歩いて引き返すのに時間がかかります。自転車なら早いです。あと、中国人の友達親子の家に行く時は、自転車で行って、帰りは車で送ってもらいます。次の日、車で迎えに来てもらって、帰りは自転車で帰ります。電車やバスに乗るときは、夫と一緒に乗ります。（2／中国）
- いつもは、歩いていける場所です。公園とか。市民館の日本語学級の時はバスに乗ります。終わったら、ランチとショッピングします。電車もバスも大丈夫です。わからなくなったら、タクシーに乗ります。（2／フィリピン）
- 家から駅までのバスだけ大丈夫です。電車に乗るときは主人と一緒に乗ります。市民館の日本語学級や一時保育、英語のおけいこ、買い物は、歩いていきます。坂が大変です。（2／エチオピア）
- こどもが小さいですから、歩いていける場所です。公園や買い物です。（2／ウズベキスタン）

2 密室育児

言語障壁から育児期の外国人女性の行動範囲はかなり狭く、特に日本語で日常会話ができない人は、子連れでの単独外出を控える傾向がある。配偶者家族が同居や近所に住んでいれば、気遣って訪問してくれたり、外へ連れ出したりしてくれるケースがあるが、そのような近親者がいない場合、ウィークデーはご夫が仕事帰りに買い物を済まし、外出は週末家族でのみという密室育児に陥りやすい。

- 夫（中国人）が仕事の間、子どもと2人きりです。いつも私のそばから離れようとしないので、本当に疲れます。（1-②／中国）
- 日常会話に不自由はないが、何かあった時に説明できるか不安。簡単なこと、単純なことを相談できる人が近くになくて不安。（2／中国）

こういった状況への自己防衛策から、SNS を使ったり、街で同国人らしき人に声をかけ電話番号を交換したりし、お互いの家庭を行き来する同国人の子育て仲間を見つけるなどの工夫が見られる。また、意図せず寂しさを紛らわすために公園に通っていたら、日本人の子育て仲間ができたケースもみられた。

質問「どのようにしてママ友を作っていますか？」

注：「ママ友」とは、子育て中の母であることを共通項としてできた友人のこと

- インターネットの SNS に日本在住韓国人ママのフォーラムがあります。そこに「田園都市沿線在住のママへ、親子で一緒に遊びませんか。」と募集をだしたら、3人が返事をくれたので、週に1回お互いの家に遊びに行っています。（2／韓国）
- 市民館の日本語学級で知り合いになりました。学級の後、親子で一緒にランチをします。（2／タイ）
- スーパーなどで中国人らしき人を見つけたら「中国人ですか？」と声をかけます。それで、中国人だったら、電話番号を交換して後で連絡して会います。（2／中国）
- 毎日子どもと近所の公園に遊びに行っていたら、子どもどうしが何となく一緒に遊ぶようになって、その日本人のママとしゃべるようになって、それでママ友になりました。いろいろ教えてくれます。いい人です。私の日本語がまだまだなので、正直何をいつているのかわからないことも多いんですが、話しを中断したら悪いかなど、聞き返しません。（2／中国）

しかし、これは幸運にも気の合う子育て仲間や支援者が見つかった場合で、散住と言語障壁で孤立する確立が高いこの地区の外国人女性は、育児や異文化適応への小さな不安を溜め込んで、相談する相手もおらず、ストレスが溜まる傾向にある。

- 夜泣きがひどくて困っています。寝られないので参ります。こんなに泣くのは、なぜでしょう。どうやったら泣かなくなるのでしょうか。病気じゃないですよ。同国人の友達に相談するけど、その人たちも自分の子どものことで頭がいっぱいでしょう。納得できる答えが返ってこなくて、いらいらします。誰に相談したらいいのか、わかりません。(1-②/中国)
- 幼稚園では外国人だといじめられないか、ママ同士の付き合いは大丈夫か不安です。仲良しの外国人ママの子どもと一緒に幼稚園に通わせようと思っています。(1-①/ウズベキスタン)
- 離乳食を始めましたが、食べてくれません。何をどのようにして食べさせればいいのでしょうか。(1-②/中国)
- 離乳食を作る時、中国と日本では野菜が違うから、何を使っていいかわからない。調味料も中国のものが手に入らなくて困っている。(2/中国)
- 台湾のほうが食に困らない。日本は野菜や果物の種類が少ない。屋台とかがなく、スーパーしかない。子どもを預けるのも保育園しかない。台湾では、ライセンスなくても気軽に子どもを頼める。シッターが1対1でみてる。(2/台湾)
- 子どもが、ご飯を食べません。心配です。食べるときは、すごくたくさん食べます。変です。(1-②/エチオピア)

* サロンが終わって、夜、スタッフにメールが届いた。「子どもが日本語で手が痛いと言回も言う。どうしたら言いかわからない。」折り返し電話を入れる。状況を聞くと、外傷ではなく、手の腫れも、熱も嘔吐もない。配偶者(日本人)は海外出張中で、帰国は1週間後。

不安な様子。明朝、一緒に病院に行くことを約束。翌朝、電話をいれると「元気になったから大丈夫」とのこと。子どもは覚えてたの日本語を繰り返していただけたようである。

居住区内にエチオピア人はひとりで、配偶者は海外出張が多く、近所で仲良くしていた日本人は転勤で引っ越してしまい、日本語学級とサロンが唯一、地域社会とのつながりだとのこと。配偶者に状況を報告。配偶者が海外出張から帰国後、東京在住の同国人やアフリカ出身者、親アフリカの日本人との交流回数を配偶者が意図的に増やし、母親の不安が落ち着いたようである。

3 情報過疎

行動範囲や付き合う人の数や国籍が限られると、おのずと口コミ情報の数は少なく、更に日本語が読めない場合は、情報過疎が起きやすい。以下は、「外国人保護者のための日本の幼稚園を知る会」の参加者アンケートである。

<参加者アンケート結果／1-①>

1. この会を何でしりましたか。

チラシ	5	子育て支援センター、日本語学級
すくらむ21のホームページ	0	
外国人ママ友に聞いて	2	
知り合いの日本人に勧められて	1	
その他	1	親子日本語サロン

2. 説明はいかがでしたか。

とてもよかった	6
よかった	3
ふつう	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0

3. 感想をお聞かせください。

- いろいろ説明もらった。よかった。
- 幼稚園についていろいろ聞きました。考えなかった。これから調べておきます。今日はありがとうございます。
- **It helps me a lot of knowing and having knowledge of Youchien.**
- とても役に立ちました。これからもっと知りたいので、あっちこっち行ってみますと思います。
- いつも情報が足りないので、こういうイベントがよくあればいいなと思います。
- 外国人のために今回の幼稚園を知る会はとてよかったと思います。やっぱり、正しい情報を聞いて安心しました。
- 外国人のためにこういう説明会を作ってくれて本当にありがたいです。助かります。
- 今日の説明会いろいろおしえてもらいました。よかった。

参加のきっかけは「チラシを見て参加」が多く、日本語が読めることが情報獲得には必須であり、次に多い「ママ友や知人、支援者に勧められて参加」のように日本語の生活会話ができ周囲とコミュニケーションがとれたり、同国人の子育て仲間がいたりすることも情報獲得に有効であることを示している。

そのように日常会話や情報入手のアンテナを張っている人でも、イベントに参加して初めて、基本的な日本の教育システムを知ることになった人がいた。配偶者が日本人であっても、子どもが第一子の場合、両親ともに始めての子育てで情報が不足しているケースもみられた。

- 3歳から幼稚園に入れるとは知りませんでした。チラシを見た時、未だかもしれないけれど行ってみようと思って来ました。1年前に知っていたらよかったのと思います。年中からだけど4月には幼稚園に通わせたいです。(1-①/フィリピン)
- 面接は、お父さん来ないとだめですか。平日は仕事だから(日本人の夫に)「一緒に来て欲しい」と言いにくいです。きっとダメだと断られると思います。(1-①フィリピン)
- 日本の幼稚園を知る会の後、夫(日本人)と話しましたが、幼稚園と保育園の違いがまたわからなくなりました。どちらでも子どもに良いほうに入れてあげたいです。(1-②フィリピン)

また、日本語が上手な人は、同国人や周囲の日本人から細切れの情報は入ってくるが、付き合わせると矛盾があるなど、どの情報が正しいのかわからず不安に思っている人が多かった。信頼のおける機関からの情報を期待している外国人は多い。

- 幼稚園に関しては。日本人の友達からいろいろ聞いていました。でも、少しずつだし、人によって違う事をアドバイスされます。だから何が本当か分かりませんでした。でも、こうやって、信頼の置ける団体から、流れに沿った話をまとまって聞いて、全体がわかってよかったです。正しい情報が手に入って、安心しました。(1-①韓国)
- 夫は日本人で、夫の両親と同居です。夫の両親の勧めで自宅近所のプレ幼稚園に通わせています。でも、近いからだけでいいのでしょうか。もっと子どもの教育にとって良い幼稚園があるのではないかと思い、両親には内緒で参加しました。(1-①/中国)

一方、「外国人ママとパパのための子育てサロン」への見学・取材・チラシ配布依頼が多数あった。母子の保健情報を届けたい保健師等の支援者である。彼らは一様にどうすれば散住している外国人に効率よくアクセスでき支援できるか苦慮している。支援場所に集まってきて欲しい日本人支援者と、言葉の不安があり家から歩いていける範囲で生活している外国人、お互いにすれ違い状態がみられる。

<サロンへの外部からの来場者と依頼>

外部からの来場者：延べ12名

▶見学7名

◇ 7月：日本人母子1組2名

◇ 8月：日本人親子1組2名

◇ 9月：日本人母子1組2名

高津区健康福祉センター保健師 2名

◇ 12月：広域財団法人 現代人形劇センター 1名

日本人母子1組2名

▶ 取材3名 (IV資料4, 5参照)

◇ 7月：かわさき市民活動センター 職員、市民記者 計2名

◇ 11月：神奈川新聞 記者 1名

▶ 調査1名

◇ 12月：川崎市外国人代表者会議 調査研究員 1名

▶ 招 聘 依 頼 : 1件

◇ 11月：高津区健康福祉センター 保健師 1名

チラシ配布依頼 : 3件

◇ 9月：高津市民館 多文化共生イベント参加者募集チラシ

◇ 12月：高津市民館 多文化共生イベント参加者募集チラシ

◇ 12月：現代人形劇センター 乙女文楽体験参加者募集チラシ

4 外国人女性の子育て支援センター等利用状況

川崎市の日本語識字教室は各区に1つであるが、子育て支援センターは各中学校区に1つ程度設置されている。行動範囲の狭い子育て期の母子には便利な存在であるが、果たして外国人女性は利用しているのか支援者に聞き取り調査をすると、数は多くないが、日本語の日常会話に支障がない人の利用があることがわかった。

- 外国人利用者は、たまにいらっしゃいます。見た目ではわからないので、しゃべって初めて外国の方だとわかることが多いです。初めていらした方には、利用案内をお渡ししていますが、この秋、英語版、ハングル版、中国語版を用意しました。（2／高津区・中原区で活動する子育て支援団体）
- 中国人のママがグループでいらっしゃいます。（2／高津区で活動する子育て支援者）
- 単独でいらっしゃいます。中国のかたが主ですが、モンゴルなどの方もいらっしゃいます。（2／高津区で活動する子育て支援者）
- 外国人利用者はいます。中国の方が多いです。中には、お孫さんを連れて通っているおばあさんもいらっしゃいます。（2／中原区で活動する子育て支援者）
- バングラデシュの方が、幼稚園について教えて欲しいとみえたことがありました。その時、英語が話せるスタッフが他にいなかったなので、私がお相手をしました。ちょうどうちの子も入園を考える時期だったので、一緒に幼稚園見学に行きました。その後も出願、面接とサポートしました。支援者としてよい勉強になりました。（2／中原区で活動する子育て支援者）
- 「とりあえず、にこにこしてみるものの内心どう接したらいいかわからない。登録用紙記入はいつも英語ができるスタッフに代わってもらっています。」(高津区内で活動する子育て支援者)
- 外国人の方を意識していませんでした。そういえば名簿のお名前に中国の方のお名前みたかな…はっきり記憶していません。たぶん、うちにはいらしてないのではないのでしょうか。（2／宮前区で活動する支援者）
- うちには、いらっしゃいますよ。お子さん多いので気になってます。地区担当の保健師さんも気にかけて訪問なさっているようです。利用者の日本人ママも気にかけてくださっていて「このあいだ公園

で会って挨拶しましたよ。」などと近況を教えてください。(2/宮前区で活動する支援者)

身内など親身に世話をする人の手助けで子育て支援の場に来ているケースも確認された。

- 夫（日本人）のいとこが近所に住んでいて、同じ年の赤ちゃんがいるので、赤ちゃん広場に来るときは連れてきてもらいます。日本に来たばかりで日本語もわからないので、ひとりで外にでることは、あまりありません。(2/タイ)

支援が利用できる人は、有る程度の困難を乗り越えられることも想像に難しくなく、用途に応じて賢く支援を利用している外国人女性も見受けられた。

- 5年前に日本に来たときは、一言も日本語がしゃべれませんでした。市民館の日本語教室で勉強して、今は生活に不自由ありません。日本人は優しい人ばかりだから、私の日本語で問題ないけれど、言いたいことを全部いえているわけではありません。今日は、英語も使って、いっぱい話したから、とても楽しかった。(1-②/エチオピア)
- 子どもは、いつも「ダメ」ばかり言います。とても疲れます。今日は、いっぱい遊んでもらったから、帰ったら寝てくれるかも。ありがとうございます。(1-②/エチオピア)
- 今日は、日本語と中国語の両方でたくさんしゃべれて、とても良かったです。普段は、市民館の日本語学級に通って、ティータイムに日本語と中国語でおしゃべりをしていますが、日本語を教えてもらっているので失礼があってはいけないと日本人ボランティアに気を使います。サロンは、自由に話していいから楽です。(1-②/中国)
- 日本に住んで6年になります。夫は日本人です。日本に住んでいる中国人は多いですが、気の合う人と知り合うのは大変です。上の子の時、保健福祉センターでやっていた外国人親子のための集まり（高津保健福祉センター主催「ベルファム」）に行き、中国人のママ友とたくさん知り合いました。あのような場所があって助かりました。幼稚園で

日本人の子どもと遊んだ後、公園や子育て支援センターで中国人の子どもと遊ばせて、私も中国語でおしゃべりができました。下の子がもうすぐ2歳なので、そろそろ下の子の中国人ママ友を作りたいと思って、保健福祉センターへ行ったら外国人親子のための集まりが無くなっていて、どうしようかと困っていました。サロンへは子育て支援センターにあったチラシを見て来ました。本当に助かりました。実は、子どもができる前（6年前）に通っていた高津市民館の日本語学級で同じクラスだった人とこのサロンで再会しました。彼女とは気が合うので再会はとても嬉しいです。（1—②／中国）

- 就学前検診のはがきを持ってきました。細かいことはわかりませんが、ここに書いてある日にちと時間と場所はわかるので、この日に小学校へ行けば、なんとかなるかなと思っています。もし、わからなかったら、日本語学級のボランティアさんに書類を読んでもらおうと思います。わからないこと多いけど、たぶん大丈夫。（1—③／ペルー）

5 家族の手助け

日本の支援システムの利用方法が分からなかったり、経済的負担ができなかったり、自身のニーズに合わない場合、母国から家族を呼び寄せるケースがみられる。

- 息子夫婦が働いているので、中国から孫の面倒をみるために来ました。日本語は全くわからないけれど、漢字が読めるから買い物には不自由しません。でも、ひとりで面倒見ているから、とても疲れます。昼間は孫だけが話し相手です。ここに来ると、時々中国人ママがいるので話ができます。子育て支援センターの人たちは、言葉がわからなくても親切です。（2／中国）
- 嫁が2人目の子どもを出産するのでウズベキスタンから世話をするために来ました。言葉がわからないので、家の中で上の子世話と家事をするだけですが、孫の誕生が楽しみです。今日は（子育て支援センターへ）嫁が連れてきてくれました。ひとりで孫を連れてこられるかどうか…。（2／ウズベキスタン）

- 息子には障害があり、夫（日本人）は運送の仕事で帰ってこない日もあるので、ひとりで世話をしなければならず、国から姉妹や従姉妹を呼び寄せて手伝ってもらっています。彼女たちの航空運賃と滞在費、お土産代の方がシッターさんを雇うより安いです。（2 / フィリピン）

6 こどもの母国語・母国文化保全と学習言語

こどもが家庭から一歩踏み出し社会にデビューする幼稚園は、日本人だけでなく外国人にとっても、その後の進路につながる教育の入り口として重要な意味を持っている。皆、日本人同様、各幼稚園の情報を知りたいと意欲的であるが、大きく違うのは学習言語を何にしようか、日本語環境の中で母親の国の言語をどのように身につけさせようかと心をくんでいる点である。

(1) 母の国の言語・文化の保持

日本人の配偶者を持つ外国人女性に多く見られる悩みである。日本で生活し、日本の学校で教育を受けるため、母の国の言葉や文化は、母を通してのみになり継承が難しい。母子のコミュニケーションに支障をきたすケースも見受けられる。

- 上の子の幼稚園が終わったら、友達 of 中国人親子と待ち合わせて公園に集合。子供どうして遊んでいる間、親はおしゃべりをします。この時は親も子も中国語を使います。お天気が悪いときは、こども文化センターへ行きます。自転車か、歩きです。（1-② / 中国）
- 夫は日本人なので、上の子は当然、日本の幼稚園に通っています。下の子も今、幼稚園のプレクラスに通っています。子どもは日本で生まれて日本で育っているので日本語しか話せず、私の国の言葉は話せないまま育っていくのかなと不安です。（1-② / 中国）
- 最近、「お母さん、ばかじゃない。日本語下手。」とよく言われます。息子に言われると傷つきます。私と中国語を話さなくなった。お父さんが日本人だし、日本で生まれて、日本に育ったから仕方ないのかなと思うようにしても辛いです。（2 / 中国・小4男子）

- 日本の幼稚園に通わせるつもりです。韓国語は私が教えるつもりでしたが、この頃、親子なので甘えてちゃんと覚えてくれないのではと思うようになりました。韓国語の母語教室に通わせようと思っていますが、そういう教室がどこにあるのかわかりません。幼稚園が決まったら、新大久保辺りに行って探そうと思っています。(1-①/韓国)
- 中国で日本語重点校に行かされたので、言葉の難しさは良くわかります。毎年、夏に1ヵ月半、里帰りにつれて返って、いとこ達と遊ばせたり、水泳などのお稽古事をさせて中国語を使わないといけない環境を作っています。日本にいるときは、日本語と中国語両方の絵本を読み聞かせています。無理に教えても本人にその気がないと覚えないうから、楽しみながら自然と使う工夫をしています。夫は日本人ですが中国語も話せるので、家の中では中国語、外では日本語と使い分けるようにしています。でも、娘はあまり話せないから気がついたら、私たち夫婦が中国語で娘が日本語で話していたりします。娘は、聞き取りは大丈夫のようです。最近、学校で英語を習って楽しかったと言ったので、インターネットで中国の先生から中国語で英語を習わせています。(2/中国・小4女子)
- 娘も息子もタイ語はわかりません。だから、市民館の日本語学級に通って、私が日本語をがんばっています。なかなか上手くならないですけど。でも、大丈夫親子だからね。(2/タイ・高2女子、小4男子)

この問題は、配偶者が外国人男性の日本人女性にも共通した問題であるといえる。

- 私は日本人ですが、夫はオーストラリア人です。子育てはオーストラリアでスタートしました。夫の仕事で日本に戻って、上の子を日本の幼稚園に通わせていますが、徐々に英語やオーストラリアの習慣を忘れ始めています。この子達のルーツはオーストラリアと日本ですから、両方忘れて欲しくないです。日本に住んでいる限り、日本語や日本文化は自然に身につきますが、英語やオーストラリアの文化は、親が環境を作ってやらないといけないと思っています。本人に複数のルーツをもっているといいんだと意識してもらうために

も、日本人の子どもと遊ぶ他に、複数の国のバックグラウンドを持っている子どもたちと遊ばせたいと思って、そのような場所を探しています。だから、サロンのチラシを見て「母は日本人だけどサロンに参加できますか。」と問い合わせの電話をしました。川崎市に引っ越してきて日が浅いので、サロン以外にもそういった場所があったら教えてください。(1-② 日本・配偶者がオーストラリア人)

- 先日サロンでチラシをもらった高津市民館の「外国人市民とともに学ぶ防災訓練」に行ってきました。消防車を見せてもらって息子はすごく喜んでいました。でも、オーストラリア・ルーツの親子いませんでした。いろいろ探しているんですが……。 (1-② 日本・配偶者がオーストラリア人)

「外国人ママとパパのための
子育てサロン」の様子



(2) こどもの学習言語

日本人の配偶者を持つ外国人女性の場合、父親の国・日本の学校を選ぶケースが殆どで、おのずと学習言語も日本語となる。しかし、両親ともに外国人の場合は母国の教育事情を反映して事情が少し変わってくる。中国など公用語が1つの場合は、母子で帰国し母国での教育も視野に入る。マレーシアなど複数言語を公用語にしている国出身の場合は、母語にこだわらず英語など子どもが生きていくうえで有利な言語を検討する傾向がある。両親も複数言語を使うため、多言語での教育に力みや違和感がない。

- うちが2人とも中国出身なので、両方の国の言葉を学ばせたいです。だから、幼稚園は年長の6月で辞めさせます。9月に中国で小学校に入学して、3月まで通わせます。中国ではこの時に日本のひらがなのようなピンインを習うので、それだけは中国で習わせようと思えます。4月に日本に戻って日本の公立小学校に入学させるつもりです。(1-②/中国)
- 学習言語を何にするかで悩んでいます。それによって、選ぶ幼稚園・学校が違って来ます。私は、台湾語・北京語・英語・日本語を話します。夫(台湾出身)も同じです。日本に住んでいるので、幼稚園は日本の幼稚園で日本語と思っていますが、小学校が問題です。永住の可能性もあるけれど、どうなるか今はわかりません。だから、中華学校かなと思うのですが、日本にある中華学校は2種類あって、台湾系中華学校がいいのか、中国系中華学校がいいのか悩みます。悩みすぎて、いっそインターナショナルスクールにとも思うのですが、そうすると永住の可能性もあるから、日本の学校でもいいかなとも思えてきて、本当に迷います。入園したら、幼稚園に行っている間にいろいろ調べて決めようと思っています。(台湾)
- 「英語を教えてくれる幼稚園はどこですか。帰国後役に立つので。」という質問があったママに詳しく言語環境を聞くと、中国系のマレーシア人で自らも幼児期家庭では中国語(客家語)、お手伝いさんや家庭の外ではマレーシア語、学校はインターナショナルスクールに通ったので英語、今は、マレーシア人の夫と家庭では英語と中国語で話している。いずれマレーシアに帰国するので、英語で幼稚園に通わせるのが自然かと思うが、日本のインターナショナルスクールやキンダガーデンの学費は高く、幼稚園の間は日本の幼稚園に通わせようと思っている。だから、できるだけ英語を使う幼稚園を探している。(1-①/マレーシア)

III 資料 1.

川崎市及び区ごと性別ごと 外国人市民人口(2013年12月末)								
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	川崎市
男	4681	1574	1860	1610	1124	1450	906	13205
女	6178	2049	2063	1894	1345	1636	953	16118
合計	10859	3623	3923	3504	2469	3086	1859	29323

川崎市及び区ごと 20～45才の外国人女性人口(2013年12月末)								
年齢(才)	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	合計
20-24	462	152	209	145	111	209	87	1375
24-29	719	258	350	253	139	289	125	2133
30-34	808	288	323	265	211	244	164	2303
35-39	580	246	248	232	167	202	114	1789
40-45	708	241	203	214	187	192	111	1856
合計	3277	1185	1333	1109	815	1136	601	9456

単位：人

川崎市ホームページ

<http://www.city.kawasaki.jp/200/cmsfiles/contents/0000041/41608/1312gai.pdf>

外国人保護者のための
 日本の幼稚園を知る会
 「ようちえん」ってなに？
 どうすれば はいれるの？
 2013

平成25年度 川崎市男女共同参画センター協議事業(団体提案型調査研究)



日時
 : 6月28日(金曜日)
 10:00 ~ 11:30

対象: 0歳 ~ 4歳の
 子どもを持つ親(子連れOK)

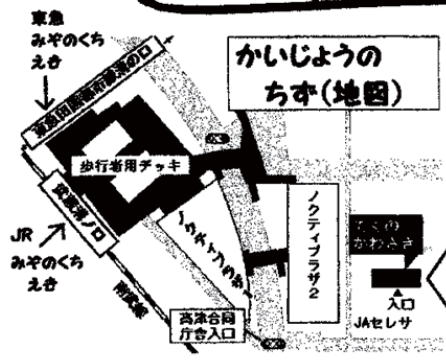
会場: 福祉パル高津 研修室B
 「溝の口」駅より徒歩約5分

定員
 : 10名

資料代
 : 200円

ようちえん

あはぎり



主催: 多文化クラブとまと
 川崎市男女共同参画センター(おくらむ21)

協力: NPO法人子育て支えあいネットワーク 溝

問合せ: 080-5532-1447 (多文化クラブとまと たはら)

会場は 溝のかわさき3階の「ふくしバルたかつ」の中です。

みちじゆん: <http://www.zai-roudoufukushi-kanagawa.or.jp/tekuno-koutu-tizu.html>

がいこくじんほごしゃ にほん ようちえん しるかい
 外国人保護者のための日本の幼稚園を知る会

もうしこ ほうほう
【申込み方法】

①～⑦を tomato2013kanagawa@gmail.com に送ってください。

- | | |
|---|---|
| <p>① ほごしゃ なまえ
保護者のお名前</p> <p>② しゅっしんこく
出身国</p> <p>③ げんざい すく
現在お住まいの区</p> <p>④ でんわばんごう
電話番号</p> <p>⑤ こども なまえ
子どもの名前</p> <p>⑥ こども ねんれい
子どもの年齢</p> <p>⑦ こどもといっしょにさんか
子どもといっしょに参加しますか？⇒はい/いいえ</p> | <p>例</p> <p>①マリア</p> <p>②イタリア</p> <p>③高津区</p> <p>④090-1234-5678</p> <p>⑤ミカ</p> <p>⑥2歳8ヶ月</p> <p>⑦はい</p> |
|---|---|



はな なや かいけつ
 みんなで話せば悩みも解決！

がいこくじん まま こそだてさろん むりよう
外国人ママのための子育てサロン (無料)

もう少しおしゃべりしたい方のためのサロンです。お気軽にご参加ください。

日時：7/11、8/8、9/12、10/10、11/14、12/12 (第2木曜日) 10:00～11:30

場所：川崎市男女共同参画センター (愛称：すくらむ21) 3階 会議室

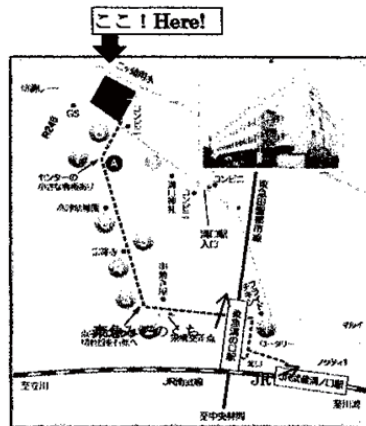
高津区溝口2-20-1 電話044-813-0808

(JR南武線「武蔵溝ノ口」駅
 東急田園都市線「溝の口」駅から10分)

申込み：不要 (直接会場にお越しください)

主催：多文化クラブとまと
 川崎市男女共同参画センター

協力：NPO法人 子育て支援あいネットワーク 満
 間合せ：Tel 080-5532-1447 (多文化クラブとまと：田原)



がいこくじん
外国人ママとパパのための

すくらむ21

平成25年度男女共同参画協議事業

こそだ さろん 子育てサロン

かわさき こそだ とし なや ふあん みな だ あ いけん じょうほう こうかん かいつ
川崎で子どもを育てる時の悩みや不安を、皆で出し合い、意見や情報を交換しながら解決して
いくサロンです。言葉の心配はいりません。サポーターもいるから安心。ぜひお気軽にいらし
てください。

もくようび
7 / 11 (木)

じ かん
【時間】

10:00 ~ 11:30

8 / 8 (木)

ば しょ
【場所】

9 / 12 (木)

かわさきし だんじょきょうどうさんかくせ ん たー
川崎市男女共同参画センター

10 / 10 (木)

(すくらむ21) 3階 会議室

11 / 14 (木)

たかつくみぞのくち
(高津区溝口 2-20-1 Tel: 044-813-0808)

12 / 12 (木)

すくらむ21 検索

ちよくせつ かいじょうへ

ち ず
地図はうら

もうしこみ ふ しょう
申込不要

む りょう
無 料

しゅざい たぶんかくらぶ
主 催: 多文化クラブとまと

かわさきしだんじょきょうどうさんかくせ ん たー
川崎市男女共同参画センター

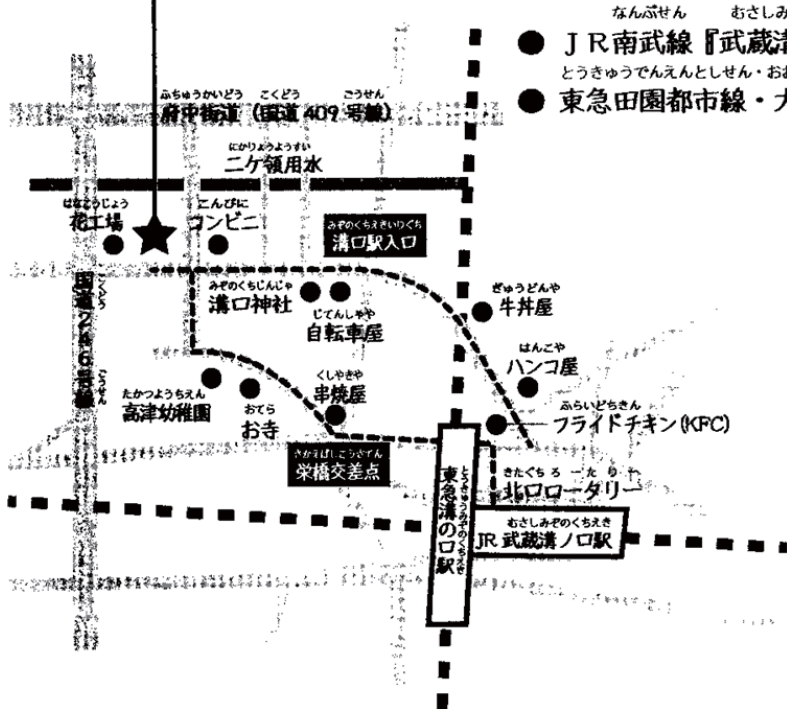
きょうりょく ほうじん こそだ ささ ねつとわーくまん
協 力: NPO 法人子育て支援あいネットワーク満

といあわ たぶんかくらぶ たはら
問合せ: 080-5532-1447 (多文化クラブとまと: 田原)

かいじょう ち せ
会場までの地図

すくらむ21 検索

かわ さきしだんじょきょうどうさんかくせんたー
川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)



- JR南武線『武蔵溝ノ口駅』
とうきゅうでんえんとしせん・おおいまちせん みぞ ちえき
- 東急田園都市線・大井町線『溝の口駅』
ある ぶん
から歩いて10分

たぶんか
多文化クラブとまとって?

がいこくじん にほんじん くに ことば ぶんか ちが の こ
外国人と日本人が、国や言葉、文化の違いを乗り越えて
たが あ たす あ たよう ゆた しゃかい かつどう
互いをみとめ合い、助け合える、多様で豊かな社会をつくる活動をしています。

サポーターも募集中!

【問合せ】たはら tel : 080-5532-1447

2013年(平成25年)8月24日 土曜日

神 奈

多文化クマラ とまと

「プールのある幼稚園の方がいい」「おむつの子、まだ言葉が通なくて」。外国人ママたちがそれぞれの言葉での悩みを、ゆっくりと日本語で話し始める。

川崎市男女共同参画センター(すくらしむすび)では本年度、月1回のペースで外国人パパとママのための子育てサロンが開かれていく。協賛した業者のほか、日本滞在が長い先輩ママも、日本人サポーター・ママたち。被

外国人の子育て支援



地域をつくる人・活動

女性の母国を育むパパとママたちが、子育ての悩みを共有し、情報交換や、ママ友づくりの場となる。また、日本語の勉強や、子育てに関する相談も受け付ける。また、子育てに関する悩みを共有し、情報交換や、ママ友づくりの場となる。また、日本語の勉強や、子育てに関する相談も受け付ける。

遊び始める。

サロンを主催するのには「多文化クマラ」として。外国にルーツを持つ子どもが学校生活で困らぬよう、そして子育てを教育に協賛する外国人ママが安心して暮らせるためだ。11月15日に行われた「外国人保護者のための日本の幼稚園を知る」では、参加者が目を凝まして、それぞれの経験で盛り上がった。

会の代議者・田原明子さんが言う。「ここに来る外国人ママたちが話しているのは、幼稚園が自由で楽しいです。また、遊び場もいろいろあります。いろいろな情報が得られます。また、日本語の勉強もできます。また、子育てに関する悩みを共有し、情報交換や、ママ友づくりの場となる。また、日本語の勉強や、子育てに関する相談も受け付ける。」

(写真提供) 田原明子

資料 4



育児不安、和らぐ場に

(神奈川新聞 2013年11月21日)

外国籍市民が日本での育児の悩みなどを語り合う子育てサロンが、川崎市高津区の市男女共同参画センターで開かれている。異国で漠然と抱く不安を吐き出すことで気が楽になり、参加者同士のつながりも生む出会いの場となっている。

市民グループ「多文化クラブとまと」(田原明子代表)と同センターによる協働事業の一環で、ことし7月から12月まで計6回開催。これまで、中国やマレーシア、ウズベキスタンといった多様な国籍の母親らが参加してきた。

「子どもは何歳のときに産んだ?」「保育園には通ってる?」

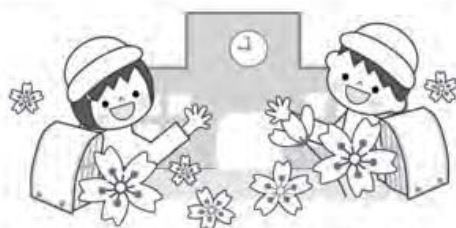
今月14日に行われた5回目のサロンには、エチオピア人や中国人女性、オーストラリア人の夫を持つ日本人女性ら計約10人が参加。何げない日常生活や互いの文化について、田原代表(51)＝同市宮前区＝ら日本人サポーターと会話を弾ませた。

外国人を母に持つ子は幼稚園で嫌がらせを受けないか、子どもは日本語ではない母語をしっかりと学べるだろうか。日本で育児をする外国籍市民の不安はさまざま。サロンでは、日本語を苦手とする参加者のために易しい日本語で、必要に応じて多言語で意見や情報を交換し合う。

「同じ立場のお母さんたちに不安を打ち明けることで、少しでも気が楽になり、楽しく子育ての話をして仲間や居場所をつくる、そんな場所にしたい」と田原代表。その言葉通り、会場は終始和気あいあいとした雰囲気になっている。

2歳児の母で日本人の夫を持つウヌ・アムサルさんは5年前にエチオピアから来日。当初は友人も少なく苦労したが、「サロンでいろんな人と会えるのが楽しい」と安心した様子で話していた。次回開催は12月12日午前10時～11時半。参加無料。問い合わせは同グループ。(服部 エレン)

あなたの こどもは なんさいですか？



にほんでは、4がつ2かに 6さいの こどもは、
4がつ5かに しょうがっこうに はいります。
せつめいを きいて じゅんぴ しましょう。

せつめいかい
10がつ 18にち きんようび
11:30~12:00
みやまえしみんかん だい4かいぎしつ

協力：宮前日本語学級／宮前日本語ボランティアの会
主催・情報提供：多文化クラブとまと

2013年度（平成25年度）
川崎市男女共同参画センター 男女共同参画協働事業

「外国人女性の子育て実態調査」

発行
多文化クラブとまと
川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）

【多文化クラブとまと連絡先】

代表：田原 明子
E-mail : tomato2013kanagawa@gmail.com
URL : <https://www.facebook.com/mcctomato>

【川崎市男女共同参画センター連絡先】

〒213-0001 川崎市高津区溝口 2-20-1
TEL : 044 (813) 0808 FAX : 044 (813) 0864
E-mail : scrum21@scrum21.or.jp
URL : <http://www.scrum21.or.jp>